「湯前まんが美術館」設立の経緯
～熊日・窪田隆穂氏の手記から～

1970（昭和45）年6月8日、当時の熊本日日新聞球磨支局に勤務していた窪田隆穂記者は、同社論説委員の牧田正臣氏とともに、那須良輔、小林秀雄（文芸評論家）、里見弴（小説家）の球磨旅行に同行しました。名峰・市房山（水上村-椎葉村-西米良村）や国指定重要文化財の城泉寺（浄心寺、湯前町）を訪ねる旅の途中で、那須良輔とその盟友たちの素顔が強く印象付けられたといいます。

その後、良輔の特集記事制作や鶴屋百貨店（熊本市）における個展開催を通じて交流を深めた窪田氏と良輔でしたが、1989（平成元）年2月22日、良輔は75歳で他界。没後、ふるさとの湯前町が“那須良輔記念館”の設立にご助力いただきたい、という話を熊日に持ちかけ、その具体的なコンセプトを窪田氏は次のように設定しました。